

# 未来への伝承

国指定史跡上高津貝塚は、霞ヶ浦沿岸における大規模貝塚のひとつです。現在は、発掘調査の成果に基づき復元整備された史跡と、考古資料館からなる上高津貝塚ふるさと歴史の広場として保存・活用されています。ところで近年、台地上の集落に付随する低湿地遺跡が数多く調査されています。こうした低湿地遺跡では、台地上の遺跡では腐ってしまう木製の遺物や漆器が腐らずに残されていることから、縄文時代の生業活動や木工、漆工を理解する上で重要な知見を提供しています。上高津貝塚ではこれまで、台地上の貝塚では多くの調査が行われてきましたが、貝塚周辺における低湿地遺跡の有無は分かっていませんでした。そこで、上高津貝塚ふるさと歴史の広場では、学術的な再検討によって上高津貝塚の歴史的・文化的価値をさらに高めることを目指し、史跡指定範囲外における5か年の確認調査を計画しました。

初年度にあたる平成26年度には、貝塚周辺における低湿地遺跡の探索と古環境の復元を目的として、28地

## 上高津貝塚周辺谷底低地の調査 —縄文の低湿地遺跡?—

点におけるボーリング調査を実施しました。ボーリング調査とは、地中に筒状の器具を突き刺し、地層堆積物)を取り出して調べることです。その結果、遺跡の東に入り込む谷において、地表下約3・5メートルから複数の土器片を含む砂層が検出されました。そこで、この砂層の性格と供給源を明らかにすることを目的として、平成27、28年度に試掘確認調査を実施しました。

確認調査によって、土器片を含む砂層は谷底を西から東へと分布して



▲低地で見つかった縄文土器

いることが推測できました。砂層に含まれている土器は表面がすり減っており、流されてきたことがわかります。この砂層は、大雨などの際に、台地構成層の砂と一緒に土器が流されることで、できたものと考えられます。

含まれている土器片は、後期中葉から晩期にかけての土器が中心で、上高津貝塚が営まれた時期と同じです。貝殻が含まれていないこと、貝塚よりも低い場所に露出するはずの砂と一緒に流されていることから、台地上の貝塚が流されてきたものとは考えにくいのではないのでしょうか。今回の調査では残念ながら発見できませんでしたが、谷底低地のどこかに縄文人の活動の場、すなわち低湿地遺跡が存在していた可能性があります。

今年度は、出土した土器の整理作業を進め、発掘調査報告書を刊行する予定です。なお、ボーリング調査の詳しい結果については、考古資料館と市立博物館で販売している「土浦市立博物館紀要」第27号に掲載されています。

■上高津貝塚ふるさと歴史の広場  
(☎826・7111)

◀調査区的位置

(KTK10～14:ボーリング地点)

